

8 NTT 研究所 & 事業会社向け維持管理業務

レガシー装置の維持管理業務の一元実施で NTT 研究所・事業会社への貢献を目指す

NTT 研究所と NTT 事業会社の維持管理業務を一元的に実施する NTT アドバンステクノロジー（以下、NTT-AT）のネットワーク基盤技術事業部。老朽化したレガシー設備の維持管理業務をアウトソースすることで、コスト削減と人材の動的シフトが可能になる。

NTT 研究所・事業会社向け 維持管理業務を積極展開

DX（デジタルトランスフォーメーション）実現の鍵となるレガシーシステムのマイグレーションやモダナイゼーションが注目を集めている。ネットワークサービスも例外ではない。レガシーから NGN、IOWN へとイノベーションが加速している一方で、継続提供されているレガシー装置の維持管理業務は大きな課題だ。レガシー装置の知識や運用／保守ノウハウは特定のメンバーに集中しがちで、作業の属人化をもたらし、作業効率面の課題も多い。

例えば、装置故障が発生した際の故障カ所の解析・原因究明（ソフトウェアのバグ解析、部材の経年劣化の状況など）については、装置の仕様を設計した NTT 研究所や製造を担当したメーカーが行っている。このため、人材確保やベテラン技術者のノウハウ継承は大きな課題だ。

このような状況を踏まえ NTT-AT では 2020 年 4 月、ネットワーク基盤技

術を承継し、ネットワーク開発・維持管理、保守・運用などの事業継続を推進する体制として、「ネットワーク基盤技術センター」を新設。本年 4 月の事業運営体制の拡充を経て 7 月には事業部として再スタートした。

ネットワーク基盤技術事業部の伊藤陽彦事業部長は、「レガシー設備の維持管理専門部隊として、最適で誰よりも信頼され、長く安心して業務を任せられる部隊を目指している。NTT-AT には、NTT 研究所時代にレガシー装置を設計・開発したエンジニアも多く在籍していますし、4 月の体制拡充にあたっては、メーカーで NTT 装置の開発に長年従事してきたベテラン技術者も複数名採用しました」と述べている。

現在、リンク基盤の維持管理業務を行う「リンク基盤ビジネスユニット」と、ルータ類の維持管理を行う「ノード基盤ビジネスユニット」の 2BU 体制で、NTT 研究所と NTT 事業会社の維持管理業務を一元的に実施している。

昨年度は NTT 東日本・西日本が提供しているレガシー専用線装置（DSM）の維持管理を一元実施し、費用削減効果を実現したという。今年度は DSM に加え、広域イーサネットサービス「ビジネスイーサワイド



NTT アドバンステクノロジー株式会社
ネットワーク基盤技術事業部
事業部長 伊藤 陽彦氏

（BEW）」の維持管理を一元実施することを調整中であるほか、その他の装置についても事業拡大に向けて営業活動を展開している。

対象装置は古いですが、最新技術による最新の運用方法を目指す

ユーザー数が減少したレガシーサービスの維持管理業務について、属人化の防止とコスト削減を実現するためには、業務の集約と費用対効果を踏まえたプロセス変革が不可欠だ。

伊藤事業部長は、「維持管理業務の効率化に向け、AI を活用した故障解析や、ドキュメント整備のための整理／検索技術、作業の自動化／遠隔化などの社内商材を活用して、“装置は古いですが運用方法は最新”をコンセプトに維持管理業務の DX を推進し、事業を拡大したい」と今後の抱負を述べている。

	IOWN/次世代		NGN		レガシー
	開発		開発	維持	維持
現状			研究所&事業会社		
今後			研究所&事業会社		NTT-ATで実施

図 1 維持管理業務の概要